



平成27年11月1日に開催された石鎚国定公園指定60周年記念シンポジウムで発表されたシンボルマーク・ロゴデザインです。石鎚山のシンボルでもある鎖や豊かな自然の象徴である鳥と花のモチーフにしています。縁がわきで、縁に出会える石鎚山。人と人、人と自然を結ぶ「縁」が生まれることをイメージしています。このデザインはお土産品や印刷物など石鎚ゆかりのグッズなどに許認可制で使用することができます。



発行:愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会
写真協力:奥川健一、北添伸夫、瀧野隆志、藤原徹明

いしづち

石鎚

ミニガイドブック

ISHIZUCHI MINI GUIDE BOOK



山を安全に楽しむため 服装に気をつけよう



帽子 日差しや頭上から落ちてくるものから身体を守るため必ずかぶりましょう。

動きやすい服を

山は天気が変わりやすく温度変化も激しいので、こまめに脱ぎ着できるようにしよう。

登山用タイツ・パンツ

動きにくいジーンズは避けよう。登山用のタイツやパンツがおすすめ。怪我や虫に刺されないよう夏でも丈の長いものにしよう。

ソックス 登山専用の厚手のソックスは、足への衝撃をやわらげてくれる。

靴 底に凹凸があり、足首まで覆うトレッキング専用のものを履こう。

石鎚登山を楽しむ 10の約束



山のほりを楽しむうえで、いろいろな約束事があります。大切な自然をいつまでも楽しめるようルールやマナーを知っておきましょう。

- 1 自然に感謝しよう**
人も自然の中で生きています。石鎚山には貴重な自然がたくさんあります。
- 2 あいさつをしよう**
みんな山の好きな人たちです。出会う人には気持ちよく元気にあいさつをしよう。
- 3 のぼりの人を先に**
せまい道で向かい合ったときは「お先にどうぞ」とのぼりの人に道を譲りましょう。
- 4 追い越すときは早めに知らせる**
後ろから追い越すときは早めに声をかけよう。走って追い越さないように。
- 5 大人数のときは騒がないように**
友だちと一緒にいるとつい騒いですが、周りへ迷惑をかけないように

- 6 決められた道を進もう**
植物の保護や遭難防止のため道以外の場所へ勝手に入らないようにしましょう。
- 7 ゴミは必ず持ち帰ろう**
自然を美しく残すことはもっとも大切なこと。ゴミは自分の責任で処理しよう。
- 8 動植物を大切にしよう**
動物や植物は傷つけたり持って帰ってはいけません。ペットは連れてこないように
- 9 携帯トイレを準備しよう**
アウトアショップで買うことができます。出発前にトイレを済ませましょう。
- 10 自分の行動に責任を持とう**
無理のない計画と、十分な準備で自分の身は自分で守りましょう。

※参考:石鎚ロングトレイルより

知っておきたい 9つの危険



道迷い



転倒・転落・滑落



疲労



落石



落雷



鉄砲水



危険な野生生物



雪崩と崩落



低体温症と凍傷

※参考:日本山岳ガイド協会「安全登山ハンドブック2016」

石鎚山公衆トイレ休憩所

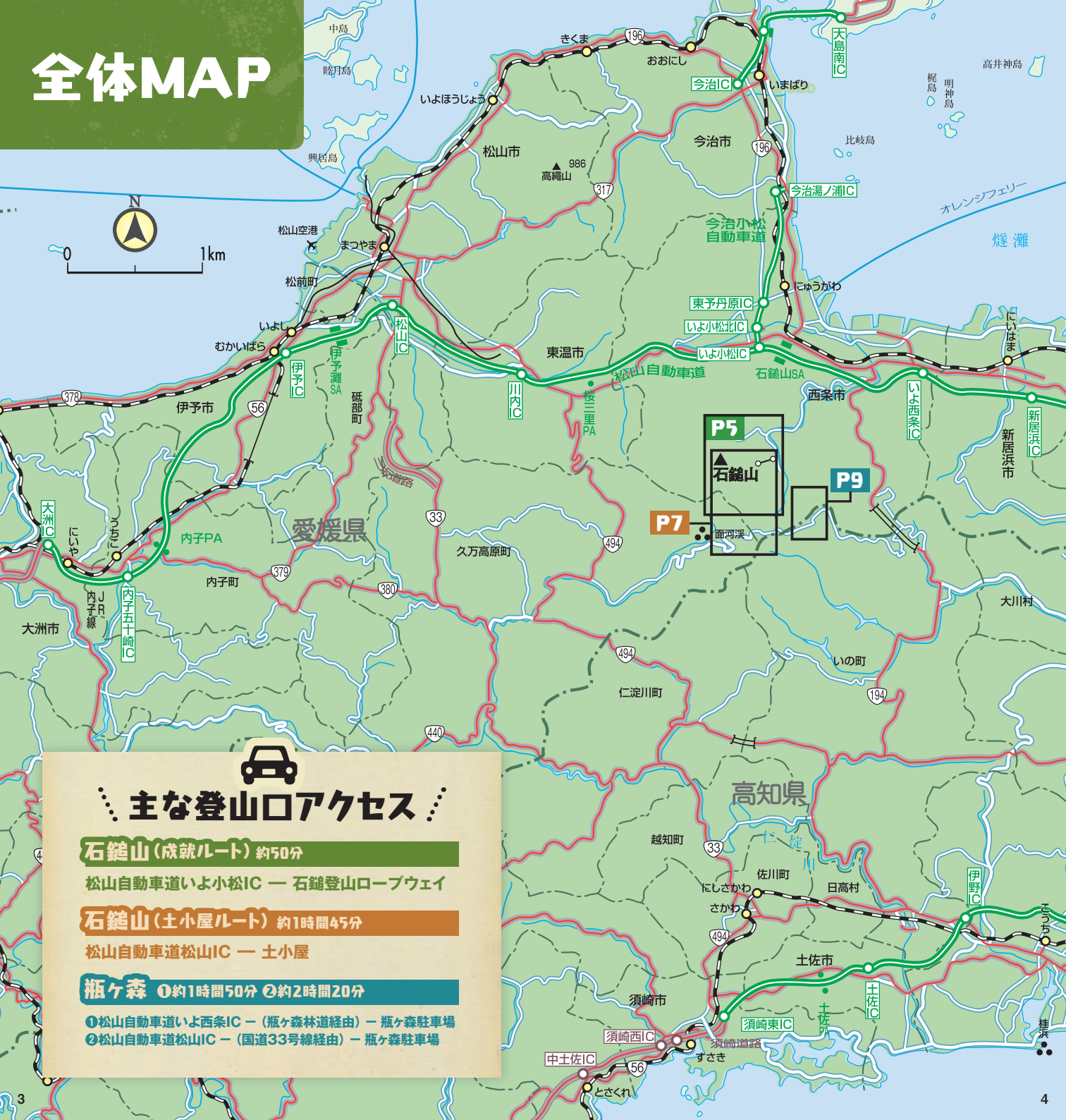


山のトイレの使い方

- ① チップ(1回100円)に協力
- ② 便器内に紙を捨てない
- ③ 水洗(流し)は1回だけ
- ④ 汚したら掃除する

※協力金(チップ)100円

全体MAP



主な登山口アクセス

石鎚山(成就ルート) 約50分

松山自動車道いよ小松IC — 石鎚登山ロープウェイ

石鎚山(土小屋ルート) 約1時間45分

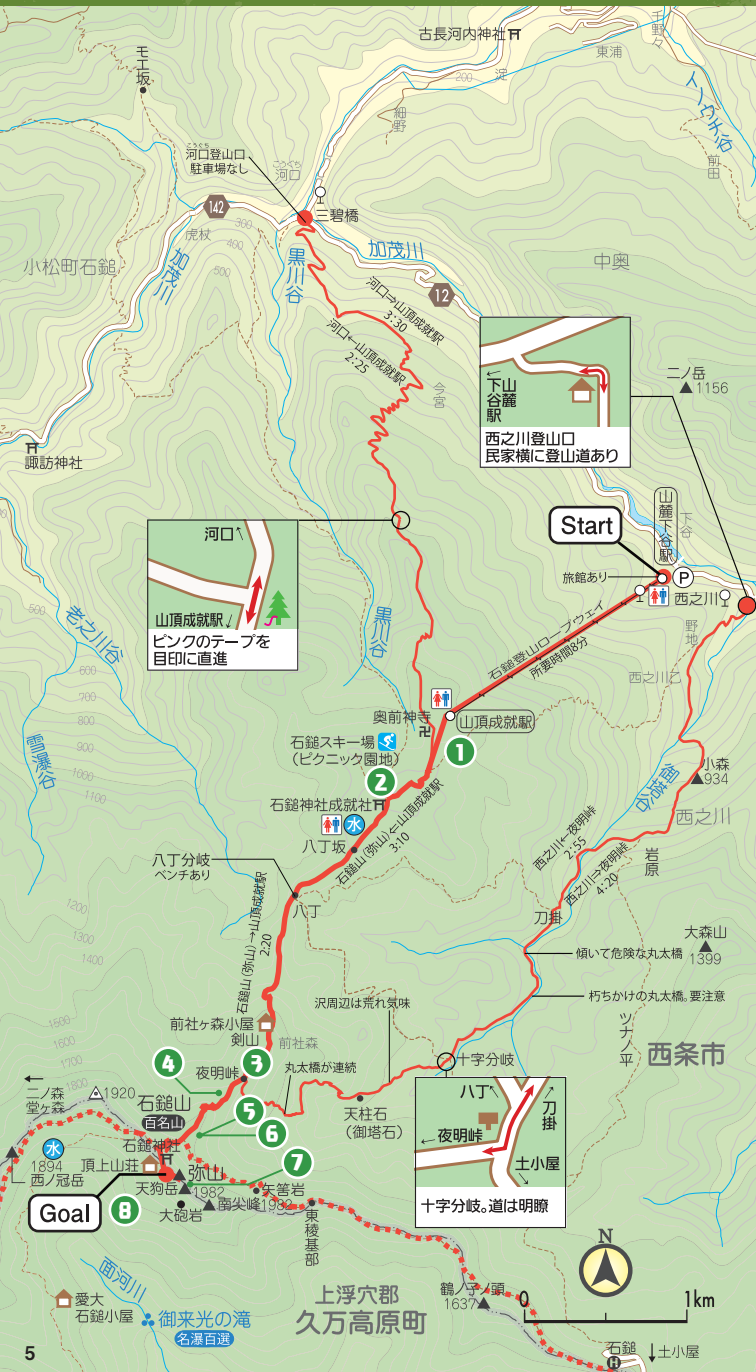
松山自動車道松山IC — 土小屋

瓶ヶ森 〇約1時間50分 〇約2時間20分

- ① 松山自動車道いよ小松IC — (瓶ヶ森林道経由) — 瓶ヶ森駐車場
- ② 松山自動車道松山IC — (国道33号線経由) — 瓶ヶ森駐車場

石鎚登山 成就ルートマップ

石鎚登山ロープウェイを利用して
山頂成就駅から山頂を目指します。
成就社、前社森、夜明峠など、
眺望が開けたところが多く、
成就社までは冬でも
ハイキングが楽しめます。



ビュー ポイント



ポイント 8 天狗岳



ポイント 7 弥山



ポイント 6 二の鎖



ポイント 5 二の鎖から



ポイント 4 一の鎖から



ポイント 3 夜明峠から



ポイント 2 成就社から望む石鎚山



ポイント 1 石鎚登山ロープウェイから

石鎚登山

土小屋ルートマップ

石鎚山へ最短で登れるのが
土小屋発のルート。
二の鎖までは傾斜も緩やかで
初心者にはおすすめです。
自然観察をゆっくり楽しみながら
登るのにも適したルートです。



ビュー ポイント



ポイント 8 冬の天狗岳



ポイント 7 石鎚山北壁



ポイント 6 二の鎖手前鳥居から



ポイント 5 天柱石



ポイント 4 面河方面を望む



ポイント 3 登山中に見える頂上



ポイント 2 整備された道が続く



ポイント 1 土小屋から瓶ヶ森

石鎚山系下 見られる 動植物たち



アケボノツツジ (ツツジ科)

花期: 4月下旬～6月上旬

石鎚山系や赤石山系の山々に行楽シーズンを告げる花。高山の岩場に生え、山肌をピンク色に染める

1500m以下		1500m以上		
登山道 沿い	樹林内	登山道 沿い	ササ原	岩場・ 岩隙



トサノミツバツツジ(ツツジ科)

花期: 4月中旬～6月中旬

日本植物学の父・牧野富太郎によって高知県で発見された。岩場などに生え、秋は紅葉を見せる

1500m 以上	登山道沿い ササ原 岩場・岩隙
1500m 以下	登山道沿い 樹林内

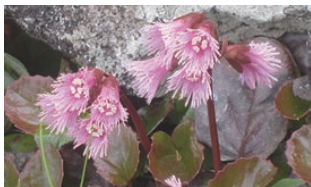


イシツチザクラ(バラ科)

花期: 5月上旬～5月下旬

石鎚山系に点在している固有種。4mほどの樹高で枝先につつまき気味の花をつけるのが特徴

1500m 以上	登山道沿い ササ原 岩場・岩隙
1500m 以下	登山道沿い 樹林内



イワカガミ(イワウメ科)

花期: 5月下旬～6月中旬

北海道から九州にかけての高山に分布する多年草。石鎚山系でも、まれに3～10輪ほどの淡紅色の花が見られる。生育地が岩場であること、光沢のある丸い葉をもつことが名の由来。1500m以上の岩場に生息



ユキワリソウ(サクラソウ科)

花期: 5月下旬～6月下旬

本州中部から九州までの山地に分布。その名のとおり雪解け直後に花が開くことから名がついた。高さは10cm程度で、1～1.5cmのピンク色の小さな花を3～7輪つける。1500m以上の登山道沿いに生息



ミヤマダイコンソウ (バラ科)

花期: 6月上旬～7月上旬

本州中部以北を主な生育域とし、石鎚山は南限。岩場に生える多年草。ハート型の花びらが愛らしい

1500m以下		1500m以上		
登山道 沿い	樹林内	登山道 沿い	ササ原	岩場・ 岩隙



ツクシシャクナゲ(ツツジ科)

花期: 5月上旬～6月上旬

樹高が3～4mに達し、淡いピンク色の花を咲かせる。石鎚山系にはホンシャクナゲも自生する

1500m 以上	登山道沿い ササ原 岩場・岩隙
1500m 以下	登山道沿い 樹林内



ヤマシャクヤク(ポタン科)

花期: 5月下旬～6月中旬

シャクヤクに似た花で、フナ林などに自生する多年草。茎の先に4～5cmの花が上向きに咲く

1500m 以上	登山道沿い ササ原 岩場・岩隙
1500m 以下	登山道沿い 樹林内



フクリンササユリ(ユリ科)

花期: 6月下旬～7月下旬

茎の高さが50～100cmになり、漏斗型をした淡紅色の花を咲かせる。ササ原の近くや疎林の中に生育する

1500m 以上	登山道沿い ササ原 岩場・岩隙
1500m 以下	登山道沿い 樹林内



イヨフウロ(フウロソウ科)

花期: 7月下旬～8月下旬

「シコクフウロ」とも呼ばれるが、生育域は西日本から九州に広がる。花の色は濃淡さまざま

1500m 以上	登山道沿い ササ原 岩場・岩隙
1500m 以下	登山道沿い 樹林内



シコクイチゲ (キンポウゲ科)

花期: 7月上旬～8月上旬

石鎚山系と赤石山系の高所のみ分布する愛媛県の固有種。イチゲには一輪咲きという意味がある。日本アルプスに咲くハクサンイチゲの変種で、石鎚山を代表する花の一つ



ヤマアジサイ (アジサイ科)

花期: 6月下旬~8月下旬

山に初夏を告げる代表的な花。林の中や沢沿いなどに生育する。紫色、薄紅色など種類が多い

1500m以下		1500m以上	
登山道沿い	樹林内	登山道沿い	ササ原・岩場・岩隙



ハガクレツリフネ(ツリフネソウ科)

花期: 7月~10月

低山から山地のやや湿った場所に群生する。葉の下に釣り船形の花を吊り下げて咲くことから名が付いた。種は刺激により自らはじけ飛び

1500m以上	登山道沿い
ササ原	岩場・岩隙
1500m以下	登山道沿い
樹林内	



シシウド(セリ科)

花期: 7月下旬~9月上旬

高さが2mにも達する多年草。草地に生え、多数の小さな花が傘状に広がる。一般的なウドとは別の種類

1500m以上	登山道沿い
ササ原	岩場・岩隙
1500m以下	登山道沿い
樹林内	



ナンゴククガイソウ (オオバコ科)

花期: 7~8月

山地の日当たりのよい草地に群生する。茎の先に淡紫色の小さい花を穂状にたくさんつける。輪生する葉が何段にも付くことからクガイソウと名がついた。1500m以上の登山道沿いに生息



イシツチボウフウ (セリ科)

花期: 7月下旬~8月下旬

石鎚山系の稜線付近に生育。風が強いところでは、葉が地をはうようにのにびる。小さな白い花が多数咲く

1500m以下	1500m以上
登山道沿い	樹林内
登山道沿い	ササ原
	岩場・岩隙



ミソガワソウ (シソ科)

花期: 7月下旬~8月下旬

木曾川上流の味噌川に多く咲くことが名の由来。石鎚山が南限とされ、湿った草地に生育する

1500m以下	1500m以上
登山道沿い	樹林内
登山道沿い	ササ原
	岩場・岩隙



キレンゲショウマ (ユキノシタ科)

花期: 8月中旬~9月上旬

徳島県・剣山を舞台とした小説『天涯の花』に出てくることで有名だが、最初に発見されたのは石鎚山。深山の湿った木陰にまれに生育する多年草



ミヤマアキノキリンソウ (キク科)

花期: 8月上旬~9月下旬

乾燥した草地などに生育する多年草。平地に生育するアキノキリンソウの高山型

1500m以上	登山道沿い
ササ原	
1500m以下	登山道沿い
	樹林内



オオマルバナテンニンソウ(シソ科)

花期: 8月下旬~9月下旬

高さ40~100cmの茎の上部に、穂状に花が並び。別名トサノミカエリソウは牧野富太郎博士が命名

1500m以上	登山道沿い
ササ原	岩場・岩隙
1500m以下	登山道沿い
樹林内	



レイジンソウ(キンポウゲ科)

花期: 8月上旬~9月中旬

深山の湿った林縁に生育する。「レイジン(伶人)=雅楽奏者」の烏帽子に見立てて名がついた

1500m以上	登山道沿い
ササ原	岩場・岩隙
1500m以下	登山道沿い
樹林内	



ヤマホトギス (ユリ科)

花期: 7月下旬~10月上旬

林縁や林床に生育。名は花びらの内側の紫色の斑点が、ホトギスの胸に似ていることから

1500m以下	1500m以上
登山道沿い	樹林内
登山道沿い	ササ原
	岩場・岩隙



オタカラコウ (キク科)

花期: 7月下旬~10月上旬

沢などの湿った場所に生える。葉は大きなハート型で、フキに似ているがキクの仲間

1500m以下	1500m以上
登山道沿い	樹林内
登山道沿い	ササ原
	岩場・岩隙



リンドウ (リンドウ科)

花期: 9月上旬~11月上旬

秋のトレイル沿いを彩る代表的な花。低山から深山まで日当たりの良い場所に生育する多年草

1500m以下	1500m以上
登山道沿い	樹林内
登山道沿い	ササ原
	岩場・岩隙



アサマリンドウ (リンドウ科)

花期: 9月上旬~11月上旬

三重県の朝熊山で発見されたことから名がついた。通常のリンドウよりも小型

1500m以下	1500m以上
登山道沿い	樹林内
登山道沿い	ササ原
	岩場・岩隙



アサギマダラ (チョウ目タテハチョウ科 マダラチョウ亜科)

観察シーズン: 6月~9月
幼虫は、毒を持つガガイモ科の植物を食べ、これを取り込んで身を守る。日本南岸では幼虫で越冬するが、南西諸島や台湾から飛来する個体も多い

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近

愛媛県の県鳥



コマドリ(スズメ目ヒタキ科)

観察シーズン: 5月~8月

ブナ林の林床で「ヒンカラカラ」とよく通る声で鳴く。警戒心が強いものの、ガレ場の谷などで見かけることもある(体長: 14cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近

オオルリ(スズメ目ヒタキ科)

観察シーズン: 5月~8月

オスは鮮やかな青い羽が特徴。木の上の方でさえずる姿が見られる(体長 16~16.5cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近



ホシガラス (スズメ目カラス科)

観察シーズン: 5月~8月

まれに山頂付近で見られる。白い斑点が星空のように見えることが名の由来(体長: 34~35cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近

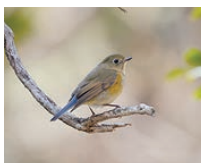


コエゾゼミ (カメムシ目ゼミ科)

観察シーズン: 7月~8月

大昔サハリンから来た北方系のゼミ。ブナ、ミズナラなどに頭を下にしてとまり、「ジ」っと高音で鳴く。

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近

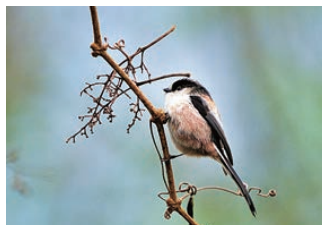


ルリビタキ (スズメ目ツグミ科)

観察シーズン: 5月~8月

この鎖より標高が高い所で繁殖し、冬には平野に移動する。針葉樹の岩場が観察スポット(体長: 14cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近

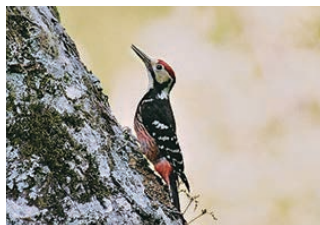


エナガ(スズメ目エナガ科)

観察シーズン: 通年

体は小さく丸みがあり、長い尾が特徴。群れで行動し、他の種類と混群をつくることが多い(体長: 13cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近



オオアカゲラ (キツツキ目キツツキ科)

観察シーズン: 通年

「キョッキョット」と鳴き、ブナなどの枯木に棲む昆虫を食べる。八丁坂付近で観察される(体長: 28cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近



ウグイス(スズメ目ウグイス科)

観察シーズン: 通年

里から高山まで生息する。鶯色と言われるが実際はオリーブ褐色。ホーホケキョのさえずりは有名だが繁殖期以外では、チャッチャッと鳴く

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近



ヒガラ(スズメ目シジュウカラ科)

観察シーズン: 通年

石鎚山で最も多く見られる鳥。あまり人を恐れないので、近くで観察できることも(体長: 10.5~11cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近

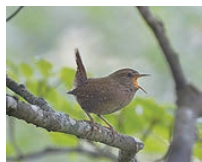


キセキレイ (スズメ目セキレイ科)

観察シーズン: 5~8月

籬の水辺や成就社の境内、土小屋の開けた場所などで見かける。「ツイツイ」とさえずる(体長: 20cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近



ミソサザイ (スズメ目ミソサザイ科)

観察シーズン: 5月~8月

岩の上や枝先など目立つ場所で「チーチーチルル」と、小さな体に似合わない大声で鳴く(体長: 10~11cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近

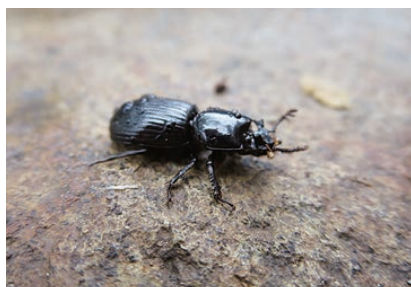


ゴジュウカラ (スズメ目ゴジュウカラ科)

観察シーズン: 通年

ブナ林で見かけることが多い。木の幹に垂直にとまり、頭部を下にして歩いて移動する珍しい習性がある(体長: 13.5cm)

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近



ツノクロツヤムシ (コウチョウ目クロツヤムシ科)

観察シーズン: 5月下旬~6月中旬

四国、九州のブナ地帯に生息。一生をブナなどの朽木中で生活するが、繁殖期には地面を歩く姿を見ることが出来る

1700m付近~
1400m~1700m付近
~1400m付近

